

加齢性眼瞼下垂症について

城山病院形成外科 吉川彩医師

眼瞼下垂症とは上まぶたが上がりにくくなつて、物が見えにくくなる状態です。これは先天的なものもありますが、多くは加齢など後天的な原因で起こります。「眼科からの紹介で来られる患者様が多く、手術で見つらい症状が解消できます」という吉川医師に話を聞きました。



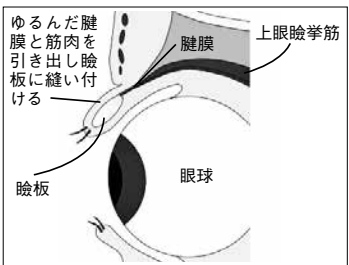
加齢性眼瞼下垂症の症状と原因

まぶたは上眼瞼挙筋などの筋肉がまぶたの芯となる瞼板を引き上げることで開きます。この筋肉とまぶたは腱膜という組織でつながっていますが、この腱膜が加齢によりたるむことで、まぶたを引き上げることができなくなり、また、皮膚のたるみや筋肉の衰えでもこのような症状が現れます。まぶたが上がらなくなり、瞳孔がまぶたで隠れてしまうと、当然、視野が狭くなり、歩行や車の運転にも支障が出ます。また、おでこの筋肉を使つてまぶたを上げようとすると、額にしわができ、眉毛の位置も高くなります。このため肩こりや頭痛、目が疲れるなどの自覚症状が現れます。

治療について

治療は局部麻酔での手術です。手術はまぶたで瞳孔の半分以上が隠れており、手術による合併症を発生するリスクのない人に行います。当院では主に次の2つの手術を行っています。

- ① 挙筋前転術(左図)
腱膜を瞼板に縫い付ける手術です。上まぶたの皮膚を切開し、たるんだ腱膜と筋肉を前方に引っ張り、糸で瞼板に縫い付けます。上眼瞼挙筋の力がしっかりと瞼板に伝わり、まぶたが開きやすくなります。
- ② 余剰皮膚切除術
たるんで垂れ下がったまぶたの皮膚を切除する方法です。まぶたの皮膚を切除する場合と、眉毛の下で皮膚を切除する場



合があります。まぶたを押し下げた余った皮膚がなくなるので目を開くのが楽になります。症状によってはこの2つの手術を同時に行い、効果を高めます。どちらの手術も切開後きれいに縫合して閉じ、約1週間後に抜糸します。手術時間は約2時間(両目)で、出血が多いことと術後にまぶたが腫れるため、その処置と安静にしてください。ただ、1日入院となります。術後、翌日から洗顔、シヤワーが可能です。なお、この手術をしても再発することもあります。

気になる方はお気軽にご相談を

まぶたが上がらないことで視野が狭くなるだけでなく、見た目の印象も変わります。気になる方はかかりつけ医の眼科医さんの紹介状を持って外来にお越しください。※当院では初診で診察もできますが、その場合は選定療養費がかかります。

▼形成外科の外来診察時間は月～金曜日 8時30分～12時。吉川医師は月・火・木曜担当。